

かくだ商店街ミーティング開催記録

2024年度

10.23 商店街再生事例講演会 & トーク
「チャレンジが連鎖する商店街の新しいカタチ」

ゲスト：宮崎県日南市油津商店街 | 木藤亮太氏
栗原市六日町通り商店街 | 杉浦風ノ介氏

11.6 ワークショップ「角田で実践するには？を考える」

2.6 フィールドワーク@六日町通り商店街(栗原市)

3.16 3事業合同交流会「これからの商店街を語ろう」

6.4 キックオフ講演会 & トーク
「そのまちの人と場所から組み立てるまちづくり」

ゲスト：東京科学大学 | 真野洋介教授
一般社団法人 ISHINOMAKI 2.0 | 松村豪太氏

7.11 講演会 & ワークショップ
「地元住民が楽しむまちづくり × 観光」

ゲスト：岐阜県多治見市 たじみDMO | 小口英二氏

9.5 フィールドワーク@石巻市

9.29 講演会 & ワークショップ
「尾道式巻き込み型空き家再生まちづくり」

ゲスト：NPO法人尾道空き家再生プロジェクト | 豊田雅子氏

10.13 フィールドワーク@角田市
「物件活用のヒントを見つけるまちあるき」

ナビゲーター：東京科学大学 | 真野洋介教授

11.19 これからの動きを考えよう①

12.15 これからの動きを考えよう②



1.栗原市の六日町通り商店街を視察 2.市内外関係なくさまざまな地域から参加者が集まる 3.岐阜県で商店街再生に取り組む小口英二さん 4.石巻のまちづくりについて現場で話を聞く 5.「昔はこんなお店があった!」「こんなお店があったらいいな」過去・未来の商店街の姿をイメージ 6.ワークショップではみんなで意見を出し合う 7.実際に市内を歩くとたくさん発見がある 8.グループで出たアイデアを発表する参加者のみなさん



学びのダイジェスト

勉強会やフィールドワークを通じて、商店街は「守る」だけでなく時代に合わせて「変えていく」必要があると学びました。そのためには商店街の課題解決に限定せず、**中心市街地全体のまちづくりとして捉え直すことが重要です。**先進地では、**挑戦する人を受け入れる空気感や仕組み、交流環境を作り、行動**

を起こす人材が揃うことで良い動きが生まれています。また、長く続いていくためには「稼ぐ」仕組みをつくることも必要です。議論で終わらせず「やってみる」姿勢が次の一步をつくと学びました。この成果を活かし、まずは小さな点の取り組みを増やしていきたいです。(商工観光課担当者)



コラム1

「商店街」ってどこ？お店をやっていない人も関係あるの？

「かくだ商店街ミーティング」では、4つの商店会を含む市の中心部全体を商店街エリアとして事業を実施していますが、商店を営んでいる人や、商店街に買い物に来る人だけが対象ではありません。目指しているのは、このまちで過ごす時間を豊かにし、このまちに関わる人を増やすことです。これまでも市内外からさまざまな職業、幅広い年齢の人が参加してくださっています。



こちらもぜひご覧ください！角田市商工会Webサイト
「かくだてくてくRPGまちなかご足労おかけしマップ」



参加者のみなさんからの意見や感想

2024年度



大変勉強になりました。どう角田に取り込めるか、これからの事業に活かしたいと思います。



まずは小さな事でもやってみることが大切だと思います。このワークショップを継続して、実際に何かを実行していくところまで進めてほしい。

2025年度

キックオフ講演会&トーク



閉店するお店が多く、空き家が増えている。新規開業する若者が開業しやすい方法を確立できたらいい。



「自分はこれがしたい」という熱を持った人が沢山出てきてくれると良いまちになる気がします。



何かしたい事がある方がいれば、場所を提供したり出資したりするのも良いなと思いました。



地域住民の意見交換や情報交換ができる「たまり場」は必要と感じました。



講演会&ワークショップ



角田は、可能性を秘めた魅力的なまち。人の多さよりも人のつながりが大事だと思うので、より良い角田づくりをする人を増やしていきたい。



講演はマネできるものもたくさんあったので、今年度もしくは次年度に、ぜひ一つでもやってみたい。



行政に過度に依存せず、自主財源を確保し民間主導で持続可能な形を築いていくことが理想。



古いもの、不便なもの、密集されたものは悪ではなく、磨いて価値を生み出せるという考え方を大切にしていきたいです。

フィールドワーク



石巻は想像以上に復興を遂げていて、若い人のアートの力を活かしたパワーを感じた。



石巻は震災復興があったが、それだけでは人は集まらなかったと思う。可能性を広げるため、面白い人を集める求心力、場づくりのヒントをいただければと思う。



角田市の商店街をゆっくり歩くことがなかったので「こんなお店があったんだ」という気付きが多かった。



角田市には古い物件が多いが、手直しすれば活用できる場所はあると思った。使い次第で活用の仕方はいろいろありそう。

伴走してくださっている専門家の方からメッセージ



一般社団法人 ISHINOMAKI 2.0
松村豪太氏

コーディネーター
兼アドバイザー

それぞれの大切なものや挑戦を集めながらこれからの景色を作っていく。そんな試みに参加させていただき、私自身どんどん角田のファンになってきています。



東京科学大学
真野洋介教授

アドバイザー

角田のまちと人の集まり。やってみたいこと。まちの新たな始まりがもう見えています。その第二幕に新年度も加わることを楽しみにしています！



Bottoms
谷津智里氏

ファシリテーター

いろいろな人の話を聞いたり、まちを歩いたりしながら何度も言葉を交わすことで、だんだんと前向きなパワーが高まっていくのを感じています！

コラム2

並行してさまざまな調査も実施しています！

角田市では「かくだ商店街ミーティング」と並行し、さまざまな基礎調査も行ってきました。

- 1 事業者が抱える課題
- 2 空き店舗の実態
- 3 市民の率直な意見

3つの視点から、商店街の現状をデータに基づき正確に把握し、地域住民に愛される「まちなか」づくりに役立てていきます。

1

商店街アンケート調査
2023

商圏人口の減少、後継者不足、店舗の老朽化などの課題があげられ、商店街を取り巻く環境の厳しさがうかがえました。

2

空き店舗調査
2024

売却・貸出に前向きで地域貢献への意欲を持つ所有者が多くいました。活用に向け、既に準備を進めている物件もあります。

3

市民アンケート調査
2025

名物店や老舗に対する評価があった一方で、利用頻度の低さや商店街に魅力を感じる人の少なさが浮き彫りとなりました。



詳細はこちら